

VI 実習記録について

子どもは、日々の施設や保育所等での生活の中で様々な活動を生み出し、多様な経験をしている。保育士が日々の保育を振り返るうえで、日々の様子を記録すること自体が子ども理解に繋がり、保育を読み解くことにもなる。すなわち、記録は、実践そのものを客観化・相対化する第一歩であり、子どもの活動や経験、自らの保育などについて記録することを通して、保育中には気づかなかったこと、無意識で行っていたことに保育士は改めて気づくのである。

記録を通して振り返り（省察）する際は、まず子どもと保育士の二者への視点で保育を捉えることが求められる。「子どもに視点をあてる」とは、一日の保育やある期間の保育が終わったときに、その間の子ども一人一人の様子を振り返り、施設や保育所での生活と遊びの様子を思い返してみることである。また、「保育士に視点をあてる」とは、一日の保育やある期間の保育について、自分の保育実践が適切に行えたかどうかを振り返ってみることである。例えば、その期間に設定したねらいや内容が適切であったか、さらには環境構成の見通しと援助が適切であったかなどを改めて見直すことである。

このような保育の振り返り（省察）により、一日、一週間、一ヶ月などある期間の子どもの生活や遊びの実態を捉え直し、子どもの言動の背後にある思いや成長の姿を読み取り、それらについて言語化していくことは保育士の専門性を裏づける大切な力量であるため、養成課程における実習指導でその素地を培っていく必要がある。

そこで、保育実習指導における記録の指導に関しては、まず基礎的理解を図ることに主眼を置き、そのうえで実習における記録（実習日誌）の書き方等について明示することとする。

1. 保育における記録の意義

（1）保育所保育指針における記録の位置づけ

ここでは、そもそも「保育および保育実習ではなぜ記録が必要なのか」ということについて、まずは保育所保育指針および保育士養成カリキュラムなどによる制度上の位置づけを確認し、加えて「保育の過程」の観点から記録の意義について理解を図る指導を行う。そのためには、まず『保育所保育指針』において、記録の意義や重要性がどのように位置づけられているか確認し、解説的に指導する。

保育所保育指針

第1章 総則

3 保育の計画及び評価

（4）保育内容等の評価

ア 保育士等の自己評価

（ア） 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

（イ） 保育士等による自己評価に当たっては、子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などにも十分配慮するよう留意する

こと。

- (ウ) 保育士等は、自己評価における自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること。

(2) 保育士養成カリキュラムにおける記録の位置づけ

続いて、『指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について』において、実習の記録がどのように位置づけられているかを確認し、解説的に指導する。

指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について

(別紙2) 保育実習実施基準

第2 履修の方法 備考3

- 5 指定保育士養成施設の所長は、毎学年度の始めに実習施設その他の関係者と協議を行い、その学年度の保育実習計画を策定するものとし、この計画には、全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法等が明らかにされなければならないものとする。

第3 実習施設の選定等

- 5 指定保育士養成施設の実習指導者は、実習期間中に、学生に指導した内容をその都度、記録すること。また、実習施設の実習指導者に対しては、毎日、実習の記録の確認及び指導内容を記述するよう依頼する等、実習を効果的に進められるよう配慮すること。

(3) 保育の過程（プロセス）と記録

指導計画を作成するという事は、明日の保育を考える、あるいは未来の保育を予想する、すなわち、子どもの生活を見通して保育をデザインしていくことである。

保育実践は子どもの生活実態を理解することから始まる。そして、その生活を見通して作成した（デザインされた）指導計画を基に、保育を柔軟に実践していく。その保育実践を点検、評価、見直し、改善していくという一連の全体を「保育の過程（プロセス）」と呼んでいる。

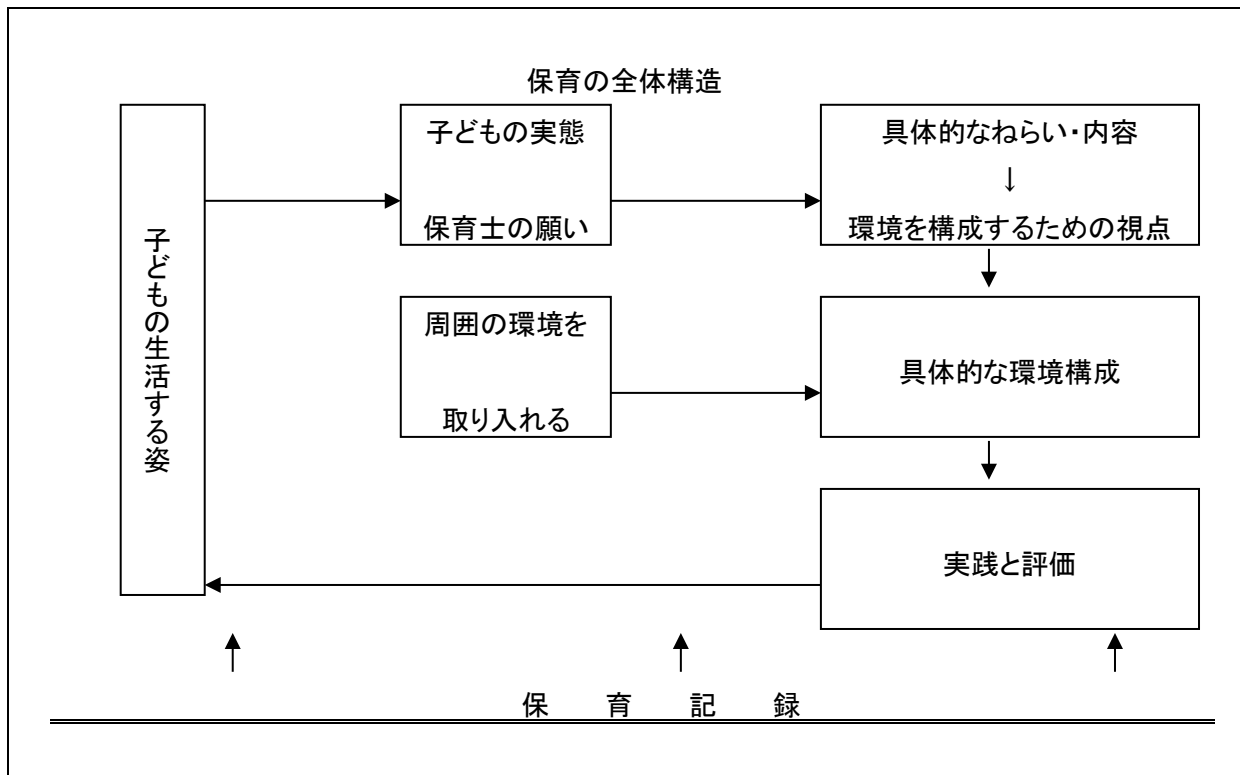
この「保育の過程」は、一度展開したら終わりというものではない。保育の改善とは、子どもについて多様な観点からその理解を深めることであり、それはそれまでの指導計画を見直し、次の期間の指導計画に生かしていくことにもつながる。こうして日々展開されていく保育の営みが、つながりをもちながら積み重ねられていくことが重要である。

また、保育は、子どもと環境との相互の多様な関わりが連続していく過程であるため、保育の計画は発達や生活の連続性に配慮したものであることが求められる。

全体の計画（カリキュラム）とこれに基づく指導計画を作成するという事は、それまでの保育実践を振り返り、記録等を通して保育を評価し見直すという改善のための組織的な取り組みの一過程でもある。

子どもの姿を捉えながら自らの保育を振り返り（省察）し続けることが、保育の改善につながってい

く。すなわち、計画（Plan）、実践（Do）、点検評価（Check）、改善（Action）という一連の過程が連鎖して保育が行われることにより、保育の質の向上が図られていく（Spiral up）。そして、それらを支えるのは「記録」なのである。



保育では、計画（Plan）、実践（Do）、点検評価（Check）、改善（Action）という一連の過程が連鎖する好循環（Spiral up）が企図された連続的実践が図られる。ここでは、それらを支えるのは記録であり、子どもの姿を捉えながら自らの保育を省察し続けることが、保育の質の向上につながっていくということを指導する。

2. 保育における記録の目的

（1）記録の意味

ここでは、保育ではなぜ記録をするのかという問いに答えるような指導を行う。

端的に言えば、子どもによりよい保育を提供するためであり、保育士の意識と技術を高めるためでもあるが、その意味するところについて掘り下げた指導をする。

保育における記録には、上記の他におおよそ次のような意味が考えられる。

- ① 保育士間の情報伝達を確かなものとするため。
- ② 子どもや家族と保育士のコミュニケーションを深めるため。
- ③ 保育士の研修に役立てるため。
- ④ 内容を正確に残し、適当な保育がなされている証とするため。

(2) 記録を通して培われていく力

ここでは、記録を書く（書き続ける）ことでどういう力がついていくのか、そしてそれらは保育の実践力とどのように結びつくのかということについて指導する。

保育の記録を積み重ねることにより、保育士には次のような力が培われていく。

- ① 情報記銘力
- ② 情報収集能力、感知能力
- ③ 判断能力
- ④ 情報の表現能力（情報伝達能力）
- ⑤ 記録確認能力

3. 記録の技法

(1) 記録の基本

ここでは、記録は何をどのように書くべきかについて、基本的事項を指導する。

まずは、記録で発生しがちな問題を具体的に紹介し、記録（書き方）の原則や保育における記録の心得などを概説し、記録の修正・訂正の方法についても説明する。

1) 記録で発生しがちな問題

- ① 他者が見て、事実や経過を理解できるように書かれていない。
- ② 子どもに対する対応や処置が正確性を欠く。
- ③ 内容に継続性がなく、断片的に記載されている。
- ④ 記録ではなく、メモ書きになっている。

2) 記録（書き方）の原則

- ① 「事実の記録」と「解釈の記録」を分ける。
(客観的視点に基づく記述と、主観的視点による記述の分離)
- ② 「会話・行動」と「保育士の印象」を分ける。
(・・・からか、・・・ようである。→・・・である。・・・ようである。)
- ③ 計画における評価の観点と照らし合わせてみる
(子ども評価、プログラム評価)
- ④ 連続性・・・結果のみでなく、文脈を考える
(意欲、プロセス、期待・見通し)
- ⑤ 自分への宿題を課す・・・〈改善〉
(振り返り(省察)と、学びの継続)

3) 保育における記録の心得

- ① 記録は、誰が読んでもわかりやすいよう、具体的かつ簡潔にまとまりよく書くこと。
- ② 子どもの様子の変化を記録したときは、その後の対応も忘れずに記録すること。
- ③ 記録は、いつの出来事かはっきりとわかるように、その都度、日付と時刻を忘れずに書き、時

間の経過がわかるようにすること。

- ④ 記録は、関わりや対応などの根拠を明確にするため、誰が言ったのか明らかになる（情報の発生源がわかる）ようになる書き方をすること。
- ⑤ 自己流の言葉を作ったり、具体性を欠いた抽象的な言葉は使ったりしないこと。
- ⑥ 難解な語句やわかりにくい専門用語は、なるべく用いないようにすること。
- ⑦ 俗語や流行語、省略語等を使わない（但し逐語記録では発言者の言葉をそのまま使用する）。
- ⑧ ひとくくりで形容する言葉を多用しないこと。

◇いろいろ、多様、様々

例) 今日は、様々な遊びが見られた。

↓ 「様々」って何? 具体的に書くこと

今日は、「A」や「B」で遊ぶ姿や、「C」や「D」などの遊びが見られた。

- ⑨ 誰が書いた記録なのかを明らかにするため、記録者は記録ごとに署名または押印すること。
- ⑩ 記録が書き終わったら必ず読み返し、内容を再度確認（チェック）すること。

4) 記録の修正・訂正

● 手書きの場合

- ① 記録を書き換えるなどの行為は原則として禁止（記録の改ざんになる場合あり）。
- ② 記録された内容を書き換える必要がある場合は、追記として別途記載する。
- ③ 原則的には、ボールペンなどの消すことができない筆記用具で記載することが求められる。
- ④ 記録の途中で修正が必要になった場合は訂正印を押し、どのように修正されたかが明確になるようにする（修正液・修正テープなどは使わない）。

訂正の例 夕食後 △年△月△日

18:35 ~~夕食後~~に食堂で〇〇ちゃんから「お昼頃からなんかお腹が痛い」と訴えがあった。
二重線を引き、訂正印を押し。

● PC 等による作成の場合

- ① 手書きの場合同様、記録を書き換えるなどの行為は原則として禁止。
- ② 手書きの場合同様、記録された内容を書き換える必要がある場合は、追記として別途記載する。
- ③ 一度提出した記録を、手書きで修正する方法は手書きの場合④に準ずる。PC 等で修正する場合は、修正箇所がわかるよう色や書体を変えて再印刷する。
- ④ 再印刷した場合、基の記録はシュレッダー等で適正に破棄する。もしくは、再印刷した記録と共に保管する。

(2) 記録の文体

ここでは、実際に記録を書くにあたって、叙述体・逐語体・要約体・説明体などの文体について解説する。

1) 叙述体

- ① 叙述体とは、時間の経過に沿って、起こった出来事・事実だけを（記録者の説明や解釈を加えずに）記述する文体である。
- ② 記述の詳細度の程度によって、保育士や子どもの相互作用を詳細に記述できる。叙述体と、要点を絞って全体を短縮して記述する圧縮叙述体に分けられる。

2) 逐語体

- ① 逐語体は、叙述体の最も原型的なスタイルである。
- ② 保育士や子どもの発言をありのままに記述する文体である。
- ③ 面接などでのワーカーとクライアントとのやりとりを、逐語体だけで記録したものを「逐語記録」という。
- ④ 通常、保育士と子どもの相互作用は言葉による会話だけでは把握しきれないことから、逐語体だけが用いられることは多くはない。
- ⑤ 逐語体は、専門職の教育訓練に用いられる場合を除き、叙述体のなかに、カギかっこ付きで組み込まれて用いられることが多い。

3) 要約体

- ① 要約体は、事実やその解釈・見解の要点を整理して記述する文体である。
- ② 記録が冗長になるのを避けるために用いられる。
- ③ 圧縮叙述体と要約体は同じようにみえるが、要約体は単に文章を短くしただけでなく、「問題のポイントが明記されたもの」でなければならない。

4) 説明体

- ① 説明体とは、客観的事実や子どもの発言に対する保育士の解釈や見解を説明するための文体である。
- ② あらかじめ主観的情報と客観的情報が項目分けされていない場合、明確に区別して記述することが重要である。
- ③ なぜそのような解釈をしたのか、その根拠を示して書くことによって、書き手の独断やうがった解釈になっていないか、読み手によるチェックが可能になる。

(3) 記録における《事実》の書き方について

保育における記録では、保育士の主観を織りまぜながら記録をする方法もあるが、ここでは、客観的事実に基づく記録が求められる状況（観察記録、事故の場面、病変時の場面、医療的対応など）に焦点を当てて、記録における《事実》の書き方について詳細な具体例をまじえながら指導を行う。

保育では、色々な場面や子どもの状態の変化など、実際の諸事象について冷静かつ客観的な視点で《事実》を正確に書く記録を求められる。

1) 《事実》の記録の基本的な手順

- ① だれが・・・・・・子ども、保育士など
- ② いつ・・・・・・時刻
- ③ どこで・・・・・・場所
- ④ どうしたか・・・・「子どもと環境とのかかわりの中での変化の過程」
「子どもの言葉、保育士の言葉、そのやりとり」
「保育士が子どもの観察を行った結果」 など

※書き方によっては、単なる「決めつけ」や「推測」「主観」と受け取られてしまうことがある。

※〈事実〉のみを正確かつ客観的に記録することが大切（理由の考察、解釈は不要）。

2) 推測や主観を併せて記録できる場合

- ① 《事実》の記録は、状況などを客観的に記録することが原則である。
 - ② ただし、客観的な記録をもとに保育士が推察を加えることで、より状況がわかりやすくなる場合などは、推測や主観的な表現についても併せて用いたほうがよい場合がある。
- ※「本人は」や、「本人が」、「本人から」といういわゆる主語は、特定できる場合（たとえば子どもの氏名が記載されている個人記録など）は、省略することができる。
- ※事故やトラブル、急変時の対応・処置の記録は、推測や主観的な表現は用いない。

3) 結果から原因を推察する場合

以下の例は、結果を見て原因を推察するものである。

「午睡後にA児が『右の足が痛い』と訴えた。見てみると、爪が割れていたが、それが原因で痛みがあると思われる。」・・・客観的事実と主観（推察）を一文中で続けて記載している。

4) 結果から状態を推察する場合

以下の例は、結果を見て打撲の程度を推察するものである。

「園庭で『アーツ』と大声が聞こえた。見ると、B児が、右手は鉄棒を握った状態で、地面に膝から崩れるような格好になっていた。」・・・客観的事実

「鉄棒から滑り落ちたようだが、右手は鉄棒を握っていたため、それほど打撲はしていないと思われる。」・・・主観（推察）

5) 実習先施設で用いられる用語・略語

①保育所実習

用語	意味
未満児	3歳未満児を指して用いられる。
乳児	3歳未満児を指すことや0歳児クラスの子どもの指す場合がある。
子どもの姿	子どもの表面上の言動だけでなく、子どもの内面もとらえる必要がある。
子どもの活動	ねらいや内容と関連し、子どもが自ら活動に参加し、展開していく様子を指す。
環境の構成	保育室や外遊び、遊戯室などでの子どもの遊びが行われる場を、具体的なねらいや経験する内容を含ませ、子ども達の自主的にかかわり成長に必要な体験をしていけることを考えながら物理的・心理的な状況をつくり出すこと。 ¹⁾
環境整備	子ども達が主体的に環境にかかわって、成長や発達に必要な生活経験を行えるように環境を整えること。 ²⁾
特別な支援を必要とする子ども	軽度発達障害、広汎性発達障害、外国語を母国語とする外国人の子どもなどを指す場合が多い。

1)後藤節美「環境の構成」森上史郎・柏女霊峰・編著『保育用語辞典〔第8版〕』, p. 104, (株)ミネルヴァ書房, 2015

2)赤坂榮「環境整備」森上史郎・柏女霊峰・編著『保育用語辞典〔第8版〕』,p.150, (株)ミネルヴァ書房, p. 104, 2015

②施設実習

用 語	略 語
血圧 (blood pressure)	BP
脈拍数 (pulse rate)	PR
体温 (body temperature)	BT
職員が子どもの居室へ行くこと	訪室 (例) ナースコールがあり訪室すると、
車椅子に乗り自力で操作し移動していること	車いすで自操中 (例) 夕食後、食堂内を車椅子で自操中に、
トイレでの排泄介助	トイレ介助 (例) トイレ介助をするために居室へ行くこと、
ポータブルトイレでの排泄	ポータブル
着衣を脱がせる解除	着衣介助

6) 時刻の表記法

① 24 時間表記

- ・時刻の表記は、原則として24時間表記である。
- ・時と分は「:(コロン)」で分けて表す。

「0:00~23:59」

② 記録時は時刻を明示する。

- ・状態の変化や子どもからの訴え、処置や対応をしたとき、血圧・体温等を記録する場合は、そのつど時刻を明示する。

(例) 7:00 BP 129/69、PR 70、BT 35.6

4. 実習日誌について

実習日誌の書き方に関しては、各養成校あるいは県内共通の手引き等をふまえて指導されるものである。本ガイドラインにおいては、様式や書き方などを具体的に示すにあたり、【宮城県保育士養成校連絡協議会】で使用している実習日誌の書式を基にしている。書き方についても【宮城県保育士養成校連絡協議会】発行の「保育実習の手引き」において示されているが、本ガイドラインではその手引きを踏まえながら、実習日誌の書き方について、さらに必要と思われる事項を加えて示すこととする。

(1) 実習日誌の目的

ここでは、保育実習における日誌とは何か、また実習日誌はなぜ書くのか、実習日誌はいつどこで書くのか、実習日誌には何を書くのかなど、実習日誌の目的について解説的に指導を行う。

実習日誌は、実習において体験、実践した自身の学びの記録であり、日々の実習活動を記録すること(すなわち言語化すること)で確認し、学びを効果的に発展・深化させるためのものである。

実習では、自ら保育を言語化する過程で振り返り、点検・評価しながら次の課題や計画を明確にしていくが、実習日誌への記録を通してこれらの過程を体得し、保育士の専門性の素地が培われていく。

◇記述の原則 - 客観と主観の分離

実習日誌などでは、〈あるがままの姿〉（客観的な事実）が不明瞭で、記録者の単なる「決めつけ」や、「推測」、「主観」にすぎない場合がある。

特に、事故やトラブルまたは急変時の対応・処理等の場面では、〈あるがままの姿〉（客観的な事実）がしっかりと記録されていれば、事後に検討する際にも有用な資料になる。

これにより、他者（主に指導者）が見て事実や経過が明瞭にわかるようになり、記録（実習日誌）を通しての検証やスーパーバイズがしやすくなる。

また、こうした記述を繰り返すことによって、事象を捉える視点や洞察力が培われるようになり、あわせて省察を深めていけるようになるため、保育の実践家として必要な力量が形成されていく。

したがって、保育実習における記録（実習日誌の《主な活動の記録》など）においては、原則的に、客観的視点に基づく記述と主観的視点による記述を分離して書くことを求めることとする。

（２）実習日誌の書き方

ここでは、実際の実習日誌の書き方について、具体的な例示などにより、詳細な指導を行う。

まずは、記述の原則や主な留意点を解説し、実習日誌の実際について項目別に書き方を例示しながら、逐一的に指導する。

また、各実習段階での書き方を例示するとともに、実習日誌への指導事項（指導者からの指摘・助言等）に関すること、実習日誌の管理・提出方法などについても細かく指導を行う。

以下、実習日誌の書き方について説明するが、これらはあくまで一般的な指標であり、実習日誌の具体的な記載の方法は、実習施設の指導方針によって多様である。学生に対しては、実習においては各施設の指導に従うという基本を、確認しておくことが必要である。

1) 主な留意点

- ① インクまたはボールペンを用いて、楷書体で書く。
- ② それぞれの決められた欄に収まるように、要点をとらえて書く。
- ③ 決められた時間内に書き終えるよう努め、必ず定められた時刻に提出する。
- ④ 個人的主観的決めつけとならないよう、客観的、具体的、数量的に記録するよう努める。
- ⑤ 対象児等の固有名詞（名前）の記載の仕方は、実習施設の指導者に従う（イニシャルを使用する、ファーストネームのみを使用する、愛称を使用する など）。
- ⑥ 疑問点を書く際は、まず自分で考え、その上で不明な点について指導や助言を求める。

2) 実習日誌の項目別書き方

i. 実習施設（園）および実習の概略

① 実習施設（園）の概要

オリエンテーション等で確認し、実習初日または実習開始後の早い時期までに記入する。

② 実習の経過、実習期間中の行事予定

あらかじめスケジュールが確定している場合には、初めに全日程を記入しておいてもよいが、

未確定の場合や実習開始後に変更になる場合もあるので、実際の実習時刻や実習内容を記入するために、毎日の実習終了後に記載する。

③ 実習施設（園）のオリエンテーション（諸注意・心構えなど）

打ち合わせ時などに説明を受けた内容について、要領よくまとめて記入する。

④ 実習にあたっての目標と抱負

必ず、実習開始前までに記入しておく。

⑤ 日課、デイリープログラム、一日の保育の流れ（毎日決まっている活動）

保育所・施設で決まっている毎日のおおよその活動スケジュールを記入する。

保育所実習については、3歳未満児と3歳以上児の日課をそれぞれ記入する。

施設実習については、棟によって日課が異なる場合には、欄を区切って別々に記入する。

何通りかある場合は、それらをすべて記入する（用紙を適宜付け足して貼る）。

※留意事項

- ・ここまでの欄は、事前の訪問時に受けたオリエンテーションの内容をもとに記載すること。
- ・必要事項については、オリエンテーション等で各自から質問すること。
- ・「沿革」の覧には、実習施設からいただいた情報を基に記載すること（パンフレットや要覧等に、設立から現在までの移り変わりなどが系列的に示されている場合がある）。

ii. 日々の記録

実習内容を一日毎に詳細に記録する欄で、実習日誌の中心となる部分である。記載する主な内容を次に挙げ、項目ごとの具体的内容について、以下に続ける。

- ・一日の保育の流れの中からの印象に残った場面の記録
- ・その日の中心となる活動場面の記録
- ・実習生が参加、あるいは担当した保育の記録
- ・担当の保育士等からの講義やアドバイス
- ・実習中に参加した行事や会議等の記録
- ・子どもについて気づいたこと（心身の発達、対人関係、気質や興味関心の個人差など）
- ・保育士の役割や専門的技術について気づいたこと（環境構成や援助のあり方など）
- ・自らの実習課題についての反省
- ・実習活動を通して気づいた（当初は予期していなかった）自らの課題

① 本日の実習目標

実習目標は、その日に焦点化する自らの課題や具体的な目標を決めて、その日の活動が始まる前に設定して書く。

- ・焦点を絞り、一日で達成可能なものを設定する。
- ・実習全体の目標や、それまでの振り返りからの展望、前日の反省、その後の実習活動計画などとの関連性や系統性を意識して設定する。

② 一日の展開についての記録

一日の保育及び実習の内容を記録することが目的である。欄内に収まるように簡潔に記入する。「子どもの活動」

- ・実習開始時刻から終了時刻まで、配属されたクラスの子どもの活動を時間経過に沿って記載する。

- ・この欄は、子どもを主語として書くべきところである。

「保育士の援助・配慮」

- ・保育士の関わりや言葉かけ、環境構成等を具体的に記載する。
- ・この欄は、保育士を主語として書くべきところである。

「実習生の動き」

- ・一日の時間経過に沿って、各自の実習内容・活動等を記載する。
- ・「子どもの活動」と時間を一致させ、対応がとれるようにする。
- ・この欄は、実習生自身を主語として書くべきところである。

③感想・反省・考察

- ・一日の実習を省察するにあたっては、まず、その日に設定した目標から振り返る必要がある。また、目標達成の程度や状況について自己点検・評価をすることも欠かせない。そこで、本日の実習目標の達成状況、一日全体の振り返りと明日への展望等について、整理して一日の実習のまとめをしっかりと行う。
- ・そのうえで、明日以降の実習を見通し、次の日の実習目標を設定する。
- ・一見すると、日々同じことの繰り返しかえしのようでも、生活の中で、その時の支援の背景や意味をくみ取って記録する。

④印象に残った出来事・その他

- ・上記の「感想・反省」に、印象に残った出来事のエピソードを含めて記述する方法もある。まず、子どもの行動や言葉、保育士の関わり、子どもと保育士のやりとり、実習生の動きや子どもとのやりとりなどの場面を、詳細にかつ客観的に記録する。そのうえで、それに対する自身の思いや考えなどを記載する。
- ・その他に、一日の実習で気づいた点、印象に残った点、学んだこと、疑問点、担当保育士等からの助言・指導などについて、小見出しをつけて記録する。
- ・特に実習活動の中で、反省会などを通じて担当の保育士等から受けた指導の言葉や助言はとても貴重な宝物（保育士を志す者としての財産）であるので、丁寧にまとめておく。
- ・さらに、実習中に参加した行事や様々な会議は、貴重な機会で得るものが大きいため、確実に記録する。
- ・施設長や主任保育士等から講義を受けた場合は、その内容の概要を記入する。

⑤施設実習（保育実習Ⅰ・Ⅲ）の記録上の傾向と留意点

- ・施設の種別によって、活動の相違が実習記録の粗密に反映される傾向が生じる。具体的には、乳児院は、時系列に沿って、活動—環境構成—保育士（職員）の動きが細やかに記載されることが期待されるため、密度の濃い記載となる。
- ・他方、成人障がい者入所施設は、一日の活動の変化が比較的少なくなり、多様な活動の展開が緩やかであるため、記録自体が素朴な記載となる。
- ・こうした、施設種別の多様性があるため、日々の課題・目標に対する実践-考察-反省-疑問に関して、従来の自由記載方法が一般的であるが、エピソード記述を用いる保育士養成校もある。グッドプラクティスで例示していたので、参考にしてもらいたい。

iii. 実習全期間を通しての感想と反省、保育実習を終えて（反省・感想）

- ・実習全期間を通して、「自分は何に気づき、どう考えたのか」（自己覚知）などを記入し、「今後、

保育士としてどのように子どもと関わっていけばよいか」(今後の課題と将来の展望)などを明確にしておく。

- ・最初に書いた目標・抱負と対応づけながら、実習全体の振り返りを書く。
- ・最後に、指導して下さった保育士の方々への感謝の言葉を添える。

3) 実習日誌の提出について

- ①実習日誌は、前日の分を翌朝に担当者または所定のところに提出する。ただし、実習施設から別の提出方法を指示された場合にはそれに従う。提出のタイミングなどについては、あらかじめ指導者に確認する。
- ②平日に実習が終了する場合は、実習終了後に記入し、できるだけ間を置かずに提出する。
- ③全実習期間を通しての反省等について、土曜日で実習が終了する場合は、最終日の前日までにおよその下書きをまとめて用意し、できれば実習最終日に記入して提出してくるようにする。
- ④実習終了後には、実習施設の担当者（主任等）または施設長の認印を受け、速やかに所定の提出先に提出する。

○実習日誌のひな形（案）

（保育所用ひな形1）

月 日 曜日 天候		指導者印	
歳児 組		出席 名 (男 名/女 名)	
		欠席 名 (男 名/女 名)	
保育のねらい			
本日の実習目標			
時刻	子どもの活動	保育士の援助・環境構成	実習生の動き

一日の考察・反省

指導者の所見

指導者氏名

印

エピソード記録を段階的に記入するための施設実習日誌の工夫【書式】(四年制大学)

施設長		担当者		A Z 大学	実習生 氏 名	
月 日 () 担当グループ:					天候	
今日の实習 今日の目標						
取 り 組 み		児童・利用者の活動	実習生自身の活動(養護・支援)			
時刻	場面					

※自分が課題としている事柄に関連して、一日の中で最も印象に残った具体的な出来事を1つ、取り上げて記述すること。		
何に注目したか 〔場面・出来事と 取り上げた理由〕		
何を行ったか 〔実践〕		
何を感じたか 〔感想〕		
何を学んだか 〔学習〕		
何を課題として 残したか 〔反省〕		
何を疑問に 思ったか 〔疑問〕		
今日 の ま と め		
指導職員アドバイス	指導者名	

※取り上げたエピソードが項目によって異なる複数のエピソードにまたがらないように注意すること。

エピソード記録を段階的に記入するための施設実習日誌の工夫【記入例】(四年制大学)

		施設長	石川	担当者	竹中
3月 5日(土) 担当グループ: 中高校生女子ユニット				天候	雪のち晴れ
今日の实習	実習最終日(10日目):中高校生ユニットでの女子との交流と実習反省会				
今日の目標	①高校受験合格発表の中学3年生への関わり(特に適切な言葉かけと反応) ②実習目的・目標に対するまよへの先生方の助言や評価の正確な聞き取りと今後の実習への反映				
取 り 組 み		児童・利用者の活動		実習生自身の活動(養護・支援)	
時刻	場面				
8:30	朝食	A子は合格発表が不在で、食事中も普段より言葉かけが少ない。周囲も気遣い会話が途切れがち。		昨晚の夕食の内容や子どもたちが見たドラマを話題にして訊ね、食卓を和ませる。	
9:30	身支度	A子ら3名が制限に着替える。		A子だけでなく3名に対して、忘れ物がないかの確認を行い、受験票を忘れて自分の受験番号を中学の先生に問い合わせた失敗談を話し、励ます。	
9:40	受験生見送り	合格発表にS支援員の運転で向かう。		洗濯物の仕分けを本児たちに確認しながら手伝い、洗濯操作を確認する。	
9:45	洗濯物の確認と洗濯機に掛ける	居室に戻った女児たちが溜まった衣類とシーツ洗いに取り組む。		担当の確認をしたあと、人数が多く必要なら雑巾がけを実習生Yさんと加勢する。Yさんの提案でKさんのデッキでFMラジオを聞きながら行う。	
10:00	居室掃除	掃除機で床のほこり取りを担当する子と雑巾がけでテーブル・イス・ドア、床面を拭く担当に分かれて従事する。		実習生二人はシーツを担当して乾かす。	
10:30	洗濯物乾燥	洗濯物を個人ごとに乾燥機に入れる。		居間に行き、他の女児と一緒に、お湯を沸かしカップなど準備を整える。	
10:50	オヤツ準備	手洗いでじゃんけんでおヤツ係を決めてAさんが取りに行く。		A子さんたち全員合格すればいいねと、折鶴を色紙で折って談笑する。	
11:00	オヤツ団らん	個々に好きな飲み物を選んで入れて、談笑。		窓越しにA子ら3人の動向を見守り、部屋に戻った2人の合格報告に大きな声で「おめでとう」と出迎える。	
11:30	受験生帰宅台否の報告	車から降りてA子は真っ先に、調理師さんの所に走って向かう。他の2名は事務室から2階のユニットへ上がって合格報告してくれる。A子は次に幼児の頃お世話になった保育士さんに報告、そして園長に報告して居室に上がってくる。		3人とも合格を確認して、乾杯のお茶と内緒で用意したお菓子と久寿玉を準備する。	
11:50	A子事務室から母親に合格の報告電話	A子が電話を借りて母親に「合格しました」「うん、ありがとう」と聞き、受話器を担当のKに渡す		A子が入室した瞬間に久寿玉を割り、一斉に「おめでとう！」を言い3人を取り囲み、皆で輪になり抱きしめる。	
11:55	居室に戻ったA子に質問	A子に母親が何と言ったか訊ねる ★ A子「家に帰りたいと言.....		居室から、連れ添って事務室に往き、廊下で様子を見守る。すぐに出て、2階に駆け上がるA子の後を追う。 “どうして”という思いが湧き上がったが、言葉にせず飲み込んだ。	

コメント【F1】: 基本的に、この目標に対してのふりかえりが、裏面「今日のまとめ」になるように記述してください。

コメント【F2】: エピソードとして取り上げた箇所が明確に分かるように○印や星形あるいは破線アンダーラインを引く。

※自分が課題としている事柄に関連して、一日の中で最も印象に残った具体的な出来事を1つ、取り上げて記述すること。

何に注目したか 〔場面・出来事と取り上げた理由〕	★A子が「家に帰りたい」と漏らした場面 中学3年生になってから高校に合格しないとここ（養護施設）を出て働かなければならぬことを不登だと3日前の夕食後に告げてくれた。	
何をを行ったか 〔実践〕	"どうして"という思いが湧き上がったが、言葉にせず飲み込んだ。その後も、ただ実習反省会まで、一緒に過ごしたが、合格や高校への進学について話題にすることを控えた。	
何を感じたか 〔感想〕	合格で不登が取り払われたとばかり思っていたが、単純に喜べない心情だったのかと感じた。	
何を学んだか 〔学習〕	ことばに表す言語と心情(内面)が違う裏腹だったりする、別の暮らしをしてきて、交錯する心理が在ること。	
何を課題として残したか 〔反省〕	A子に適切な言葉かけが思い浮かばず、他の2人も含めて祝賀ムードをうまく繋げられなかった。また、A子に遠慮して自らの合格や進学について語りなくなったM香とT美への関わりについても課題と感じた。	
何を疑問に思ったか 〔疑問〕	A子の発言した「家に帰りたい」は「家から高校に通いたい」と読み替えてよいのか。また、同様に進学に寛解になったM香・T美も「家から高校に通いたい」と思っているのか。仮にそうだと、A子の発言から、同様な心情に想いを馳せるようになったのか。	
今日のまとめ	反省会でも採り上げて頂いたが、実習課題(目標)としてきた、「子どもの態度やしぐさなど非言語的表現について着目して保育士としての子どもの共感的理解を高めたい」という課題について、最終日になって深く考える機会をA子さんから頂戴したように感じた。「正しい答えなんてないよ」という先生方の助言を受けて、さらに、『社会的養護』の意味を実習後も考えていきたい。児童養護施設や養親の存在、生まれてからの成育歴という時間軸と、その時々々の生育環境としての空間と、出会うおとなや子ども同士との関わりなど、この実習を通じて、さまざまな要素や出来事の積み重ねによって、いま(現在)があることを再確認できた。私自身のいま(現在)を検証し、今後の進路や人生にも活かしていきたい。	
	非言語交流(コミュニケーション)課題に立ち回ると、物理的な立ち位置や座る位置取り・距離、子どものしぐさや視線の先に何を見ているのかなどに注視して心情を推し図り、適切な言葉かけや話題を提供することで、共感的理解や受容を心がけ、今回の実習で技術的にも上向いてきたと自負していたが、打ち砕かれた。今後は、環境構成という場面ごとだけで推し図れない、時間の流れや空間を意識した関わりを実践したい。	
指導職員アドバイス	指導者名	竹中 愛斗
<p>まず、10日間の実習お疲れ様でした。いつも素敵な笑顔を決やさず、子どもたちに、そして、明るい声で職員に挨拶や質問を投げかけてくださったこと「もりおか園」で暮らす子どもたちや職員を代表して「有難うございました」とお礼を述べさせて頂きます。僕は、今日のまとめに書いてくださった「打ち砕かれたところ」こそ、支援者にとっての宝だと考えて24年間、福祉の仕事が続けられてきました。そのことを是非お伝えしたくて、最終日にコメントを実習担当者に願ひ出たのです。反省会でも申し上げた「正解はない」「でも関わり続けること」「子どもの傍らに寄り添い、同じ方に視線を向けてみる。空気の冷たさや壁の匂いを感じてみる」そうした原点を思い出させて下さり感謝しています。</p>		

※取り上げたエピソードが項目によって異なる複数のエピソードにまたがらないように注意すること。

コメント [F3]: 1番気にかかった、引っかかった、対応に窮した、行動に驚いたなど、1日のなかで印象に残ったことを採りあげる。

コメント [F4]: 実習目的や実習目標と関連付けた実践課題・内容を展開して下さい。

コメント [F5]: 「反省」としていますが、残された課題として、実践して解決・解消できなかった事柄を記述してください。

コメント [F6]: ここからコメントして頂く職員への質問欄として活用しても構いません。

コメント [F7]: 表面「今日の目標」に対する総括が基本。1日の振り返りの中で、エピソードで取り上げた事柄以外の指導いただいた先生への質問を書いても良い。